

7年産

「玉葱（中晩生品種）」栽培基準

品 種 名	オホーツク222 北もみじ2000
目標粗原反収	5,000kg
目標製品反収	4,500kg
播 種 時 期	2月中旬～3月中旬
定 植 時 期	4月下旬～5月中旬
収 穫 時 期	8月下旬～10月下旬

基本作業	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
	上中下	上中下	上中下	上中下						
		播種								
			育苗				手取除草			
				定植				根切り		
					防除					
									収穫・風乾	

【施肥基準】

肥料名	施用量	要素量(kg/10a)				
		窒素			リン酸	加里
		N	NN	ON		
① S489A(リン酸・加里減肥銘柄)	110kg	14.3	1.1	15.4	8.8	9.9
② DdS088(有機質肥料)	150kg	12.0	3.0	15.0	27.0	12.0

【施肥上の注意点】

- ①窒素施用量は基準を15kg/10aとし、地力に応じて窒素施用量を加減する。
→窒素施用量が多いと腐敗が増加するので注意すること
- ②pHが低いと、生育が劣る。pHが低い場合はpH6.0～6.5に必ず矯正する。
- ③リン酸の肥効が劣ると、根の活着及び根の伸長が悪くなり、乾燥害を受けやすい。
土壌診断で有効態リン酸(60～80mg/100g)を確認し必要に応じて加減する。

【基幹防除ローテーションと作業体系】

散布時期	薬剤名および作業
定植前	カルホス乳剤
4月下旬	定植
5月中旬	モーティブ乳剤
5月下旬	リーフガード顆粒水和剤
6月上旬	アクチノール乳剤
6月中旬	フロンサイドSC
6月下旬	トクチオン乳剤 シルバキュアフロアブル
7月上旬	ディアナSC カンタスドライフロアブル又はパレード20フロアブル スターナ水和剤
7月中旬	バクテサイド水和剤
7月下旬	グレーシア乳剤 ストロビーフロアブル バクテサイド水和剤
8月上旬(倒伏期)	コサイド3000
8月中下旬	根切り(倒伏期から10～15日後)
8月中下旬	フロンサイドSC(根切り後)
9月上旬	スミレックス水和剤
9月中旬	パレード20フロアブル
9月中旬	収穫(根切り後2週間前後)

【農薬使用基準】

項目	適用病虫害名	農薬名	使用濃度(倍)	10a当り薬量(水100ℓ)	適正使用基準 使用時期 回数	RAC コード
殺虫剤	タマネギバエ	カルホス乳剤	500	育苗箱1箱当り0.5ℓ	定植前	1 I:1B
	アザミウマ類・ネギハモグリバエ	ディアナSC	2,500	40ml	前日	2 I:5
	ネギアザミウマ・ネギハモグリバエ	グレーシア乳剤	2,000	50ml	7日	2 I:30
		リーフガード顆粒水和剤	1,500	66g	3日	3 I:14
	アザミウマ類	トクチオン乳剤	1,000	100ml	7日	4 I:1B
殺菌剤	べと病・灰色かび病	グリーンベンコゼブ水和剤	400	250g	3日	5 F:M3
	べと病・灰色かび病 灰色腐敗病	フロンサイドSC	1,000	100ml	3日	5 F:29
	べと病	ゾーベックエンテクタSE	3,000	33ml	7日	2 F:21 F:49
	灰色かび病・灰色腐敗病	ストロビーフロアブル	2,000	50ml	14日	3 F:11
	小菌核病 灰色かび病 灰色腐敗病	パレード20フロアブル	2,000	50ml	前日	3 F:7
		ミリオネアフロアブル	4,000	25ml	前日	4 F:7
		カンタスドライフロアブル	1,500	66g	前日	3 F:7
		シルバキュアフロアブル	2,000	50ml	前日	3 F:3
		スミレックス水和剤	1,000	100g	前日	5 F:2
	軟腐病	スターナ水和剤	1,000	100g	7日	5 F:31
バクテサイド水和剤(抗生物質・銅)		500	200g	7日	5 F:M1 F:25 F:41	
軟腐病・りん片腐敗病 灰色かび病・灰色腐敗病	スクレタン水和剤	500	200g	前日	5 F:M1 F:2	
	クプロシールド	1,000	100ml	-	- F:M1	
軟腐病・りん片腐敗病	コサイド3000	1,000	100g	-	- F:M1	

※スミレックス水和剤とスクレタン水和剤は成分としてプロシミドンを含む。プロシミドンを含む農薬の総使用回数は5回以内。

項目	適用雑草	農薬名	10a当り薬量	使用時期	回数	RAC
除草剤	一年生雑草	モーティブ乳剤	400ml	定植後(雑草発生前まで)但し、定植45日後まで	1	H:15 H:3
	一年生広葉雑草	アクチノール乳剤	150ml	雑草3～5葉期(6月上旬、収穫30日前まで)	2	H:6
	一年生1科雑草	セレクト乳剤	75ml	1科雑草3～5葉期(収穫21日前まで)	3	H:1

※カヤツリグサを優先的に防除したい場合はバサグラン液剤(120ml、雑草3～4葉期、6月上旬、収穫30日前、1回)が使用可能。

【土づくり・防除技術】

1. 完熟堆肥(牛ふん麦稈堆肥で3t/10aまで)の施用を基本とする。
2. 土壌診断を実施し、適正施肥を行なう。
3. ネギアザミウマについては、発生予察を行い発生状況に応じて防除する。
 - ・1回目 → 寄生株率が50%以上になったら直ちに防除。
 - ・2回目 → 寄生株率が10%以上になったら10日以内に防除。
 - ・3回目以降 → 寄生株率が10%以上になったら10日以内に防除。10%未満の場合は防除を行わない。
4. 灰色かび病(白斑葉枯病)については、初期発生を確認して防除を行う。
5. 灰色腐敗病(貯蔵腐敗)については、倒伏期から収穫前まで3回実施する。